「平成１８年度普及に移す成果」

生物農薬を利用したトマト灰色かび病の効果的な防除法による殺菌剤の削減

みんなで進めよう
茨城農業改革

農業総合センター園芸研究所

トマト灰色かび病の防除において、生物農薬バチルス・ズブチルス水和剤（商品名：ボトキラー水和剤、以下ＢＳ剤という）のダクト内投入法（写真 1）は、化学農薬の使用量を削減できる有効な方法で、この方法を効果的に使うためのポイントを明確にしました。

写真　左：暖房機付近のダクトにあけた投入口、右上：ＢＳ剤の投入、右下：温風に乗ってハウス全体に散布

ＢＳ剤のダクト内投入法の効果的な使用ポイント

1）ダクト内投入の開始 1 週間前に灰色かび病の発生がないことを確認し、ＢＳ剤（1,000 倍希釈液）と化学殺菌剤を混用して散布する。
2）ＢＳ剤（10g/10a）のダクト内投入は灰色かび病の発生前から開始する。
3）灰色かび病が発生したら直ちに化学殺菌剤による防除を行う。
4）湿度管理や栽培管理（適度な葉かき・古葉や被害果の除去等）を十分行う。
5）2 月下旬は灰色かび病の重要防除時期になるので、化学殺菌剤を散布する。
6）3 月下旬以降に灰色かび病の発生が認められたらダクト内投入を止め、化学殺菌剤主体の防除に切り替える。

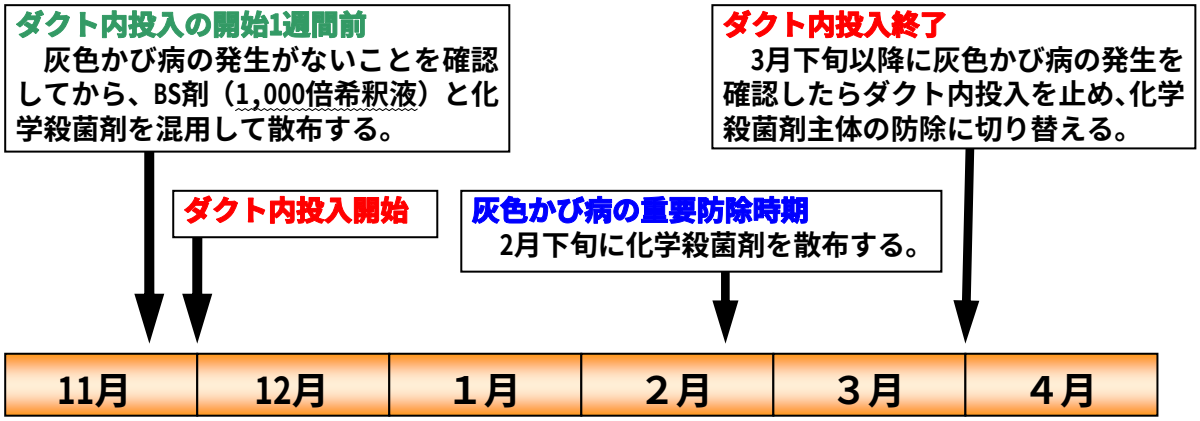

図　ＢＳ剤のダクト内投入の実施例

＊農薬散布は、使用前にラベルを確認し、周辺作物に農薬がかからないよう注意して行いましょう。

＜問い合わせ先；園芸研究所病虫研究室　　電話 0299（45）8342＞